

ID No.	331
研究課題名	腸内免疫環境ネットワークを介した生体制御
研究代表者	國澤 純 （医薬基盤研究所・プロジェクトリーダー）
研究組織	
受入教員	清野 宏 （東京大学医科学研究所・教授）
研究分担者	長竹 貴広 （医薬基盤研究所・研究員）
	鈴木 英彦 （医薬基盤研究所・研究員）
	柴田 納央子 （東京大学医科学研究所・特任研究員）
	神岡 真理子 （東京大学医科学研究所・大学院生）
研究報告書	
リンパ組織内共生細菌である<i>Alcaligenes</i>のリンパ組織内部での隔離を可能としている自然リンパ球を対象とした研究から、自然リンパ球は上皮細胞の糖鎖修飾を制御することで共生細菌の構成制御を行っていることを見いだした (Goto Y et al, Science, 2014)。 また<i>Alcaligenes</i>の存在するパイエルと腸内細菌に依存的に誘導されるIgA高産生細胞サブセットに関する研究を発展させ、腸内細菌以外にも食餌性パルミチン酸が、IgA産生細胞の増殖とIgA産生能力を高めることで、腸管でのIgA応答を増強することを発見した (Kunisawa J et al, J Immunol, 2014)。 さらに皮膚の共生細菌に着目した研究から、高濃度のレチノイン酸存在下でマスト細胞依存的に誘導される皮膚炎の発症においては、腸内細菌よりも皮膚の常在細菌が重要であること、その発症には単球/マクロファージ系に発現するTLR2が重要であることを見いだした (Kurashima T et al, Immunity, 2014)。	